

小栗上野介情報76

Http : //tozenji.cside.com/ Eメール : tozenji@clock.ocn.ne.jp



2020(令和2)年4月
発行:東善寺 住職 村上泰賢
群馬県高崎市倉渕町権田169
〒370-3401
Tel・fax:027-378-2230
〒振替0120-1-406206東善寺

**小栗まつり
中止**

5月24日(日)に予定していましたが、新型コロナウイルス感染防止の対策として中止となりました。 ◆墓前祭(読経・献香)のみ 24日午後1時～実施 参加はご自由に

特集

〈修身〉の教科書が作り出し、今も続くー

「勝海舟(安芳) 神話」 「咸臨丸神話」

日本人は「遣米使節」を知らなくても「勝海舟」「咸臨丸」の名は知っている。なぜそうなったのか…調べると、

- ・戦前の日本人は国定の**歴史**教科書で「遣米使節」「勝海舟」「咸臨丸」をいっさい教えられていない。
- ・戦前の日本人は国定の**修身**教科書で「勝海舟」「咸臨丸」の話(だけ)を教えられ、神話化していた。*下の「**国定教科書**」参照

まず結論をいえば、

- ◆日本人は大正7年以来、小学校の国定修身教科書で、勝海舟と咸臨丸の誇張脚色された「お話」だけを教えられ、戦後も「それが歴史」と錯覚していたことになる。
- ◆日本人が遣米使節・小栗上野介の業績を理解するには、まず現在の歴史教科書及び副読本の「遣米使節」の説明に使われている(遣米使節が乗らなかった)咸臨丸の絵をはずす必要がある。**代わりに載せるべきは本当の遣米使節のこの写真** ▶



国定教科書

作図：村上泰賢 不許複製

第1期・明治36～第5期・昭和20年まで(42年間)

改定期	歴史教科書			修身教科書		
	遣米使節	勝安芳	咸臨丸	遣米使節	勝安芳	咸臨丸
第1期 明治36～	記述ナシ	ナシ	ナシ	記述ナシ	ナシ	ナシ
第2期 明治43年～	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
第3期 大正7年～	ナシ	ナシ	ナシ	少々	「勉学」 勝安芳の話 A型	「勇気」 咸臨丸の話 C型
第4期 昭和9年～	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	「勉学」 勝安芳の話 A型	「勇気」 咸臨丸の話 C型
第5期 昭和16年～ 20年敗戦	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	「勉学」 勝安芳の話 B型	「勇気」 咸臨丸の話 D型

▲ワシントン海軍造船所を見学した遣米使節 この見学が横須賀製鉄所建設を生み出した これほどまっとうな遣米使節の写真を使わず、未だに「遣米使節」の説明画像を「咸臨丸の絵」で済ませている歴史教科書がほとんど。明治以来の幕府政治矮小化教育の残滓(ざんし・残りカス)教科書といわれても仕方あるまい

修身教科書「勉学」の勝安芳の曖昧な話

疑問

第3、4期A型と➡第5期B型の違い

- 1.書物の種類 欲しかったオランダの「兵書八冊」が➡外国の辞書一冊に
- 2.値段 兵書八冊五十両が➡辞書六十両に
- 3.借金 親類からの借金で➡借金を断られた
- 4.場所 持主の家に夜に通って写した➡借りてきて写した
- 5.期間 半年で写し終えた➡一年以上かかった
- 6.二冊 兵書をもって二冊に➡辞書二冊写して一冊を売った

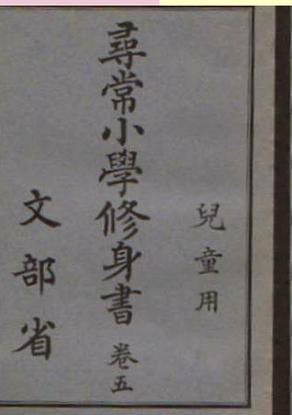
この違いは何か。

A型、B型とも作り話か?それとも史実か?…結論は両方とも作られた「お話」で構わないー「修身」だから。子どもたちがボクも頑張ろうと奮起すればいい。ただしこんな曖昧な話を「歴史」にしてはいけない。

「咸臨丸」とセット

修身教科書で勝海舟の「勉学に対する努力」という、どうにでも創作できる「お話」を学んだ後に、次の「勇気」咸臨丸の話で、脚色誇張された勇ましい太平洋横断の快挙の「お話」をセットで学習した当時の小学生は、疑問を持たずこのお話が歴史の史実と受け取ったに違いない。

裏ページ「咸臨丸神話の成立」へ続く ▶



・第3期以降の修身教科書で…「勉学」の勝安芳の話のあとに「勇気」で咸臨丸の話とし、両者を勝海舟セットとして学ぶ構成で敗戦まで27年間続いた

・第3、4期と5期で話の違いがあるので、それぞれA型ーB型、C型ーD型とした

疑問 勝海舟の「勉学」ぶりを伝える話だが、右のようにAーB型で内容が異なる。

・右**疑問**の教科書本文は掲載省略。◆HP東善寺>「咸臨丸神話」を参照して下さい。

咸臨丸の虚構二つ

1. **日本人初の太平洋横断**…1610慶長五年田中勝介がメキシコへ渡り、1613慶長八年に支倉常長が～メキシコ～スペイン往復 している
2. **日本人だけで航海した**…咸臨丸には米人ブルック大尉が部下10人を連れて同乗指導、暴風雨を乗り切ってくれた

修身教科書「勇気」における 咸臨丸の虚構 虚構から神話へ～

検 証

◆「勇気」咸臨丸の本文は→HP東善寺>「咸臨丸神話」を参照

1、**派遣の発端は** 修身教科書で 「日本人の力だけで航海をしたいと願いました」「安芳があくまでも願ってやまないの」「日本人だけでアメリカ大陸へ行ってみようと考え」「愉快なもくろみで…」

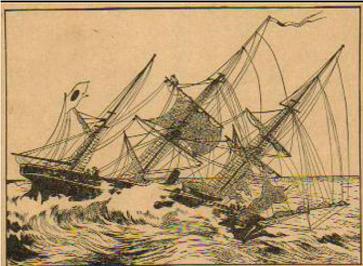
…*いかにも勝海舟が「願いました」「考えました」「願ってやまない」「もくろみ…」と率先して提案したようにみえる。実際は勝海舟の申し出など（あってもなくても）関係なく、幕府は安政五年の日米通商条約締結の時から随行船の派遣を決定していた。

（『幕末維新外交史料集成』修好門 第四巻）

2、**日本人だけで航海か** 修身教科書で 「日本人の力だけで航海したい」「少しも外国人の助けを受けず…」「日本人だけでアメリカ大陸へ…」「案内する者もなく」/福沢諭吉が「少しも他人の手を借らずに出かけてゆこうと決断」「アメリカ人に助けをもらうことはちょっともなかった」（『福翁自伝』）とし、勝が「日本人が独りで軍艦に乗ってここへ来たのはこれが初めてだと言って、アメリカの貴紳らもたいそうほめて…」（『氷川清話』）と語るのも誇張

…*愛国心をふるい立たせる勇ましい話だが、実際はブルック大尉ら11名が同乗、日本人が船酔いで動けない中、暴風雨を乗り切ってくれた。（ブルック『咸臨丸日記』、斉藤留蔵の『亜行新書』など『遣米使節史料集成』第四・五巻）

3、**航海中は** 修身教科書で 「安芳等は少しも恐れず、元気に航海を続け」…*水夫斉藤留蔵は「日本人は船酔い、動けたのは二、三人。あとはみなアメリカ人の力で嵐の中を乗り切った」（日記『亜行新書』）。ブルック『咸臨丸日記』は日本人乗組員たちに統率がなく、当直制をとらず全くアメリカ人に頼りきっている状況を具体的に記述している。



▲修身教科書の挿絵

戦後は歴史教科書「遣米使節」の説明に使われ、使節＝勝海舟という誤解をいまも助長中

4、**船酔いで寝たきりの勝海舟** 「安芳等は…元気に航海」「甲板に立ち続け」「絶えずはげまし続ける安芳のことばに…」

…*勝は船酔いのため航海中はほとんど船室にこもって寝たきりで、サンフランシスコに着くまでに甲板まで上がってきたのは3回くらい。まったく艦長（じつは教授方取扱が正式な役名）の役を果たしていない。（ブルック『咸臨丸日記』）。近年のテレビや映画で勝海舟が咸臨丸で活躍する場面を作れないのは…勝の実態が知れ渡ったから。

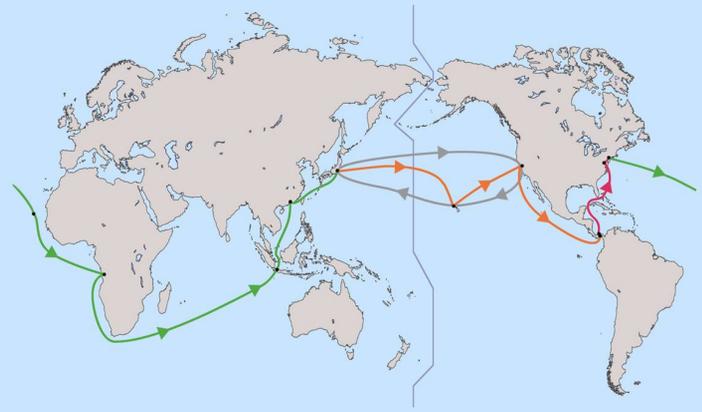
サンフランシスコから帰った咸臨丸

◆遣米使節 往路→赤い線 帰路→緑の線

で日本人初の公式世界一周

◆咸臨丸 随行名目で練習航海→黒い線

サンフランシスコ往復



「修身教科書」が生み出した「咸臨丸病の日本人」

修身教科書は上掲のような地図で遣米使節を教えず「勝の猛勉強ぶり」と「咸臨丸の壮挙」というお話だけ教えた結果、「幕末の渡米は何でも咸臨丸、勝海舟は遣米使節」と誤解する「咸臨丸病」の日本人を生み出した。戦後「修身」は終わったはずだが、後遺症でいまだに歴史教科書の「遣米使節」の説明に「遣米使節の写真」を使わず（遣米使節が乗らなかった）咸臨丸の絵を使い、説明文の大半を勝海舟・咸臨丸にあて、結果として現在も「咸臨丸病の日本人」を増殖させている。

◆NHKも間違えた「咸臨丸病」の事例は→HP東善寺>「咸臨丸病の日本人事例集」で

事例：ウィキペディアの「アイスクリン」/ウィキペディアの「咸臨丸」/NHK「いだてん」/NHK「美の壺」/山川出版『日本史図録』/山川出版『レンズが撮らえた幕末維新の日本』/東京新聞/毎日新聞/産経新聞/小学館『日本大百科全書』… などたくさん

「木村撰津守喜毅（咸臨丸提督・軍艦奉行）が副使」「副使の乗る船が咸臨丸」説は 咸臨丸の実態判明～錯誤の副産物

・昭和36年に『遣米使節資料集成』全7巻が発行され、遣米使節・咸臨丸・勝海舟の実態が判明した。

・実態判明で戦前のイメージが低下した咸臨丸の復権を図るためか、その後現れたのが「木村撰津守喜毅は使節の代理だから副使と同格」「副使の乗る船が咸臨丸」という説。

しかし、副使に正式に任ぜられたのは村垣淡路守範正ひとり。正・副使が万一の際の代理役として目付小栗忠順、木村撰津守喜毅、森田清行の順が命じられただけ。副使とは言えない。

◆詳しくは→HP東善寺>「木村撰津守喜毅副使説は誤り」/『小栗上野介情報65』参照

「咸臨丸病」が結果的に「遣米使節の日本人初の公式世界一周」や、日本の産業革命の地・横須賀製鉄所は「遣米使節のワシントン海軍造船所の見学から」発想されている史実を、覆い隠している。

小栗公本墓への参道 改修工事

募金のお願い

小栗公の本墓への参道がかなり荒れてご参拝の皆様にご不便・心配をおかけしています。今秋に「参道改修工事」に取り組むこととなりました。工事資金の浄財をご寄進いただければ幸いです。



◆小栗公本墓への参道改修工事 浄財募金

・一口 2,000円

・郵便振替口座

0120-1-406206 東善寺

へお送り下さい。



小栗邸址の観音山

いちめんの菜の花

小栗上野介が屋敷を建てかけた観音山（東善寺の東1キロ）の邸址に菜の花がいっぱい咲いています。

小栗上野介顕彰会では、ハナモモも植樹し、きれいに整備する計画が進んでいます。

